The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 229. SEPTEMBER, 6TH. 1890.

第二百二十九號目次

EDITORIAL :—Woman and the Stage.

MISCELLANEOUS :—Kinder Garden. (Mrs.) Fuyu Toyoda.) An Interview with B——. A Summer Journal. The Greatest Battle. The Experience of a Girl Student. A Domestic Economist. Miss Faucett, the Senior Wrangler at Cambridge. Tear-drops. Midnight Stars. Humorous.

NOVEL :—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES :—The "Kana" Advocates on the Wane, etc.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社說 演劇、女俳優

雜錄 幼稚園〇印度の幻術者〇消夏錄〇古來の大戰爭〇一女學生の經驗〇家政〇大學校優等生ホーセット孃の勝利〇淚滴々〇深夜の星〇きよめ口庭

小說 小公子

寄書 假名の衰退に就て〇交詢

時事 學者と節儉〇俳劇論〇夏休季の女工〇僧兵婦人〇森田思〇水と林〇神佛を論じて林政に及ぶ〇東京女學館〇電氣死刑〇女義太夫〇東洋諸國傳道師〇斷髮條例の案〇在米日本婦人放逐論〇月が鳴たか〇米國寺院の四の柱〇歷朝記事〇通信

WOMEN IN JAPAN.

I. *The Misses Prince of the Normal School lately called on the two gentlemen Messrs. Yuchi and Tani, who are the committee for erecting the monument to commemorate the Tartaric invasion. Speaking through their interpreter, Miss Noe Fuchizawa they expressed themselves as being very well pleased with the contemplated plan of the monument, promised them assistance, and hoped that Japanese ladies would be in time, sufficiently educated as to be enthusiastic over every patriotic enterprise.*

II. *Dr. Takagi with others is planning a medical school for Japanese ladies; the scarcity of female students in the medical branch, in their opinion, is owing to the want of a separate institution devoted to their sole interest.*

III. *Mrs. Chise Ushioda and Mrs. Sasaki have been working since last year for the interests of an Industrial School for Girls. Preparations being finished, the new office is fixed at Ichibei Machi, Azabu and the school itself will be opened on the 16 of this month. The branches to be taught are at present, Embroidery, Painting, Engraving, and Fancy work. The branches will in time be increased so as to meet the demands of all who are in quest of independent means of support. No tuition is to be charged and the pupils will, after a while, be paid for their work. A foreign lady and several native ladies are at present, teachers of the school.*

IV. *The Orphan Asylum in Okayama noted for the earnest faith of its disinterested originator sends the following report for May :*

Contributed sum.	*yen 51.*	*sen 17*
Amount brought over from last month.	*„ 163.*	*„ 22.5*
Amount paid out.	*„ 120.*	*„ 44*
„ in hand.	*„ 100.*	*„ 78.5*

We shall be happy to provide means for conveying contributions to this noble work.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

フホーセット孃肖像

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百二十九號
明治二十三年九月六日發兌

社説

演劇、女俳優

苟そめにも心あらん人の、何れか感ずるとき歌ひ、喜こぶとき踴らざるとあるべき。 太古、既に歌あり、歌あるを以て樂あり、樂と歌とあるを以て踴り舞ふもの神の代より絶ゆるとあらず。 左れど舞の尤とも發達したるは、今の演劇にして、演劇は素と白拍子より起ると云ふも可なり。 蓋し、鳥羽の院の御宇に、嶋の千歳和歌の前とて、二人の舞姫、舞ひ初めけり、之よりして磯の禪師、並びに其が娘靜といへるものそれ〳〵此藝を習ひ覺えき。 白拍子一變して曲舞となり、又變じてお國が歌舞伎とある、此れ慶長年中の事にして、出雲の國の大夬國と云へる女が初めて興行せる所ろの者なり、其舞西京の五條東の橋づめにあり、六條傾城町の佐渡島正吉と云ふもの之に倣らひ、遊女數多を出して舞ひ踊らせしより、江戸また諸國にも漸やくひろまり、其弊少なしとせず。 此を以て寛永の末遂に禁ぜられ、後は若衆歌舞伎行はれしが、之にも弊ありとて又禁ぜられぬ。 然し乍ら後ち狂言盡しの名を以て再興し、之より唐山の傳奇に倣らひ、やうやく狂言を巧みにし、万治三年江戸木挽町に森田勘彌の芝居出來、引つゞきて中村座市村座等も出來ぬ。 狂言盡し更に寛文年代の續狂言とあり、いよ〳〵趣向を巧妙に競ひしかば、纔かの間に大ひに進歩し、又義大夫行はれ、近松竹田などの名人引つゞきて出、淨瑠璃と狂言と相和するに至つて演劇道いよ〳〵發達し、遂に今日に至る。 流れ久くして起伏一と方ならざりしとは云へ、斯の道の今日あるは、源を歌舞伎及び白拍子に發すと云ざるを得ず、而して白拍子歌舞伎は悉く女の爲せしと也、左れば女性と演劇と相關はると古しへより頗る深し。 徳川氏の時世、能を崇めて、演劇を殊の外に卑しめ、役者を目して河原乞食と云ひぬ。 一つの政略に出でしとならめど、氣の毒なるは、其の藝人にてありける。 之を以て藝人も亦た自から卑しめ、僅かに氣骨あるものも絶へて自尊の念を存せず、或る時は卑下謙遜して、

錦着てたゝみの上の乞食かな。

と哀歌するに至れり、あわれむべきの極みと云ふべし。 之が爲めに、役者は下等の人間と定まり、下等の人間は役者と定

まり、役者と穢多と非人とは相共に遠からぬものとなれり。

凡そ品行は責任あるの地に生ず。今如此く卑しまれたるものに高き道德を求めんは固より無理の限りにてあれば、演劇は、世上の安賈に應じて品位も亦自づから下り、遂に士君子は決して之を見ず見るものは士君子にあらずと言ふに至り、演劇の品格殆んど地の底に落ちたり。

維新以後、役者は一の教導職なりと誤傳するものあり、穢多の新平民となると共に、河原乞食も神主僧侶と同列に立つに至れり。爾來改良論の流りに行はれたると共に、頓に一段地を登り、團洲櫻痴などの紳士を得て、近來は又更に其品格を上ぐるに至れり。

吾人は寧しろ之を祝するもの也。世に若し美術を尊とむべしと云はゞ演劇も亦た尊とまずんばある可からず、人もし繪畫の實體を形はすものは彫刻なりと云はゞ、小說の實景を現ずるものは演劇なりと云はずんばある可らず、若しピウリタンと為りて悉とく世の娛樂を打破し、嚴酷なる律法を發布して一切の劇場を打こはすを可しとせば、小說も彫刻も音樂も繪畵も亦た之を滅絕せずんばある可らず、吾人は今特更に演劇の善悪を言はず、只だ他のもろ〳〵の美術と同地位に立たしむるを以て公平とす、とのみ斷言し置しべし。

然るに、取分け之を卑しみたる古來の習はせによりて、今に尙ほ其の習慣なくんばあらず、頭らには其理はりを知らねど、心には自づから之を卑しむの心地す。左れど此は演劇そのもの卑しきにはあらずして、役者其人の卑しきが故なり、否な今現に卑しと云ふにあらず、曩に其の至つて下賤なりしが故に、人今に至る迄之を卑しむるのみ。凡そ仕事に高き卑しきと云ふはあらず、只だ之を行ふの人によりて尊卑の差別を生ず。故に演劇は元來耻かしきものにあらぬのみか、若し能く之を利用するときは、世道を益すると淺小ならず、遂には世に無かる可からざるの一大美術ともなるべし。エヂソン曰く、劇場は須からく道德の教場たるべしと。實に然からしめざる可らず、而して然からしめんと必らずしも難きにあらざる也。

リントン女史の言はく、人何に由りて演劇を卑しむ乎、演劇もし卑しくば稗史小說も亦た卑し、世の人シエクスピアを以て半ば聖ある人の如くす、然れどもシエクスピアは戯曲を作りしによりて半ば聖となり、俳優は其戯曲を演ずるによりて半ば禽獸となるべき乎と。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

實に演劇は賤しきものにあらず、只だ之を演するの人下賤なれば、何如に神聖の事業と云へども遂に濁りに染ずと云ふあし。左れば之を清くするの法唯一のみ、即はち之を演するの役者其人物を高くせざる可らず、役者の人物にして清からば其爲す所ろの業清からざらんとするも得ず。一の鬪洲あるは百の演劇論あるに優る、若し鬪洲の如き見識を持てる役者多からんには、日本の芝居、地よりして忽然天に登るべし。

左れど、役者に人物多からしめんと欲せば、先づ見物の眼識を高くせざる可らず、見物若し長しなへに下賤淫靡の事を喜こびとせば、劇場亦永遠に清化すると能はず。ケトー羅馬の劇塲に臨めば、觀客フロラリア（娼女フロラを祝するの曲、尤も猥褻なり）の曲を見るとを耻づ、夫れ見る人に如此き眼識ありて劇塲初めて清く、わざをぎ自から徳を立つるに至る。

近時やうやく、此の氣運に向ふとを察す、少さか慰さむる所ある也。而して今や又た男女の俳優ともに伎を演するとを許すの訓示あり、之れ更に斯の道の上への一進歩と云はざるを得ず。

男の女にいでたつは、右近源佐衛門このかた餘り賞めたるわざにあらず、況して女のあらくれ男に粉するに至つては更に見惡くきを覺ゆ。特に女優女形となり、男優男の役を勤め、更に、其性のうちに就きて、質の尤も適したるものを勤むるに至りてこそ、美術の奥秘を穿つべけれ。取分け、女優が女形とある時に於ては、情感の切なると他に比ふべきものあらず、殆んど演劇の上頂に達する心地のせらるゝものあり。之を美術の上より言ふも、又女の職業として其の適不適の上より言ふも、男女兩優の混合するとは寧しろ賀すべきものと云ふべし。

其混合すると必らずしも宜しきにはあらず、但だ女をして女形たらしめんと欲するには、必らずや男をして男に出立たしめざる可らず、之を以て兩性俳優が勞を分ちて共に技を演するを一つの進歩とはあす。

蓋し、音樂が女性に適し、文學が女性に適し、又小說が女性に適し、大凡そ總ての美術が總じて女性に適するとの如く、演劇も亦た女性に取り、極めて望あるの一職業あり。人もし之を卑しと云はゞ、尊とむべきの婦人之に入りて此技を尊とくせずんばある可らず。音樂よく人を動かす、繪畵よく人を化す、彫刻よく人を感動せしむ、小說よく極微極細に入る、左れど總べて此等を綜合して且つ一層の感動を尤深く人の心

三

に銘するものは即はち演劇なり。俳優の聲は一種の音樂あり、其立ち出る狀は一種の彫刻なり、舞臺の景色は宛がら生きたる畫なり、而して其曲の趣向は世の盛衰榮枯を肉眼の前に活演せしめ、而も善惡應報、流轉生死の影響を半日の間だに明く々示す、小說の一層實際なるものなり。故に戲曲は詩の中の最高に位ひし、演劇は美術中至難至重の地に立つ、俳優の任重もく、責め大ひならずと云ふ可らず、女性が一つの職業として決して恥かしからぬもの也。

今日の女優は何如んと云はゞ、吾人は之を尊とむと能わざるを憾らむ、故を以て今后は有爲の淑德婦人にして、自から此の技の尊ときとを覺悟し、其の世道に關はるの至つて大ひなる所以を承知し、慨然自から許し頗ぶる、遠大の思想を以て敢て之に任ぜんとするもの出であば、日本美術の爲め此上なきの喜びなるべし。何の日にか、ミセス、シツドンス。エルレン、ツリー。ヘレン、ハウレツト。リストリ。ゼテー、リンド。フハンチー、ケムボール。タグリヲニ。ミセス、ケンダル。ケート、テレーの如き、女優を得べき乎、指を屈めて待つ。項を伸ばして待つ。

雜録

幼稚園

豊田芙雄子

敎育の方法日々に整頓するに隨て世人子女の爲めに學舍の必要を感ずる事の頻繁あるは國家の爲め賀すべきなりこれ素より文明世界缺くべからざるの事なれば成るべき丈ケ完全無缺あるものを心懸るこそ當然の事ともいふべけれ抑子女の始めて父母の膝下を離れ社會に出る第一の初等級ともいふべきものは彼の幼稚園あり今や既に各所に設けられて頗る整頓するものあるは余輩の欣抃踊躍に堪えざる所ありされど又少しく欠點を免れざる事あるを聞けり仍て昔日聊か經驗せし所のものと今日聞見せし所のものとに就きてその所感を述べ大方の敎を乞はんとす。

さて幼稚園なる者は取も直さず兒童の發育する一ッの庭園なればこれが管理者即ち保姆なる者は園藝師なる故に保姆の目的とする所の者は技術に非ず才學に非ず只管自己の溫和と德儀とを充實せし精神を以て兒童の發育を開誘し兒童その癖疾あらば暗々の内にこれを撓め質直ならしめて身躰の健康と天禀の良心とを培養して家庭敎育の一端を助くべきなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其方法たる當時本邦に行はるゝもの獨乙人フレーベル氏の主旨にして歐米各國といへども亦これと同じきのみ故に唯その簡易なるものを撰擇するを以て良法とすその取捨の如きは保姆其人ありて之に任ずるのみ唯其智育的に陷るが如きの弊をば匡正せざるべからざるなり此は如何とあれば幼兒の腦力未だ軟弱なれば强て之を激るときは成人の後弊害ありともその效力はなかるべし唯身躰の强健と良心とを涵養して天賦の活動發育を助け兒童の精神をして毎に爽快の間に措かしむるを旨とすべきなり。

世人或はこれが方法を誤り幼稚園をして小學校の豫備の如きものとなし彼の至愛可憐の幼兒をして知らず〱精神を勞すべき細密なる事を爲さしめ彼れは賢し彼は秀でたり抔賞賛して止ざるは誠に非が事なりフレーベル氏の主意といへども素より激るの意に非ず躰育を基として兒童に快樂を與へるの意なれば人世必須の業を娛樂遊戯のうちに形づくりて徐にその意を寓せし事誠に懇切周到至れりといふべし然るに世人或はこれを誤解して動もすれは激るの點に傾くものあり（即ち智育的に陷るもの）戒めざるべからず。愼ざるべからず。

又本邦現時の幼稚園には六球と唱ふる絲製の球を弄することを暫く聞かず（明治十五六年以來のと）人ありこれが說をなして曰く兒童これを弄する事を喜ばずと果して然るや否やを知らざれども余歐洲に在るの日各所の幼稚園に參觀して能く之を實見せり其方法簡易なる歌曲を謳ひ其曲節に和して六球を運轉し或は進退擧止これに應じて兒童頗る興に入り奏樂瀏亮の間に遊嬉をなし藹然たる和氣は園中に滿てりされば六球その使用良法を得るときは却て兒童の娛樂に適當するものあれば世の幼兒保育者は幼兒は幼兒と看て自己大人の心を以て其發育開誘の道を誤るべからず抑幼稚園は家道富裕奴婢多く我庭園に家屋に餘りあるものは敢て該園に兒童を托することを要するに足らざれども自己の家にして得がたきものは毎に群兒と相交りて開誘遊樂を共になすの一點にありそは尋常普通の家にてはしかなすことを得ざるものあれば父母は宜く自家の近傍なる園に托して良保姆の管下に開誘し群兒と共に活潑なる娛樂をなすことを得せしめなば自然兒童の氣隨我儘抔いふ惡弊も除き去り身躰隨て健やかに精神隨て爽かに將來の學問技藝を講修するの希望を喚び起し良智良能の基礎これに因て發達するや明なり。

此頃聞く所によれば吾東京府下に幼稚園保姆を撿定するの擧

ありとかこれ輕忽にあすべきものにあらざれば其方法宜しきを失はざらんことを希望するの餘り、聊か所見を陳述することを此の如しその幼稚閑組織の如きは少しく意見なきにしもあらざれど稍閑日月を得たるの時別に述ることあるべし。

前年我國に渡來したるヂルコット氏は印度神秘教會の會長なりき、近頃之に代りて會長となりたる、彼の一身すでに變幻不測なる俄士亞亡命の女性ブラヴアツキイ女史をば、過日フランセス、ウイラード女史が訪問したるの記事あり、左に譯載す。

印度の幻術者

ブラヴアツキイ女史を訪ふ（上）　フランセス、ウイラード

第十九世紀に於て最も進步したるを誇稱するものは何ぞや、曰く理學なり、夫れ然らん、されど倘之に依て說明する能はざるものあり、世の所謂魔法なり、幻術なり、是誠に不思議の極、奇妙の極りと云ふべし、吾人は今ウイラード孃が印度の大幻術者をニウヨークの居宅に訪問せる一文を得、左に掲げて世に示す、八月下旬。　曙巢生しるす。

天外萬里逝水と共に流浪し、故鄕を慕はず、家を定めず、一所不住、飄々として世を渡るの徒群がり集ふ、都人の多き事恐らくはニウヨークの上に出でん、されど一定不變確く居を置くもの少し、いと少し、去る者、來る人、混合雜駁たり、故に世界萬國の人種、國語、風俗、宗教一として其模範を見聞せずといふ事なし、實に是一の模範陳列場、其地勢、氣候、國狀よく、人類界の大博物會に適す、是そも何處ぞや、曰く印度のゴタマ府とす。羽毛なき二足動物の手に成る幾多奇觀の內、奇中の又奇、妙中の最妙と云ふべきものあり、俄國の奇婦人ブラヴアツキイ女史の爲す所即ち是なり、女史は占卜を以て、學問を以て、豫言を以て大ひに知らる、

女子の居宅

乞ふ是より此幻術者との對話を少しくものせん、某土曜日の夕、恰もよし、女史が訪客來人の接遇に定めたる時なりけり、象車製造場の近く、斷髮士の隣り、巨屋半空に聳ゆ、是あん幻術者の魁首ブ女史の住家にぞある。呼鈴一聲を鳴らす。一婢音に應じて來り、妾等（ウイラード女史等を云ふ）を上階燈影淸明たる一室に導びきぬ、眼を配つて室內の事物を視る、時に婢亦來り、貴娘等此方へと主人の云へる由を傳ふ。下婢に從ひ、暗黑なる廊下を行く。一室に入りぬ、燈光ほのぐらき所、女史肅然として坐を占めたりけり。神秘協會の創設者、「神の顯規」の著者なる女史今あらゝかなる聲の下、字句切

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〵の英語にて好こそ來つれと語りぬ女史は。軀幹肥長にして頭腦大きく、毛髮は短かく切りつめたり、眼は一種の奇色を放ち、口は固く閉ぢて容易にもの云はず、美はしき手に穿てる指環奇態の形をなす、是ぞ奥妙秘密の存する所なる、女史の服粧は長く垂れたる黒青色の衣裳なり、東洋の風俗とて何等の飾りもなし。妾等を安樂倚子につかしめ、次ぎに女史坐して卷烟草を徐ろに取出し、之を差し出しぬ。妾等は謝して辭せり。

意志の力のみをもて

他室より書物を取り得るの秘術ありと聞く、眞耶將た僞耶、と妾の一友頭を差し延べつ、聲を勵まして問ひぬ、女史緘默して大き呼吸をなすのみ。妾此時隣室を見るに書冊許多と不思議の器具陳列せり。やがて女史答ふらく然り其秘術を知る、且妾は聲音學者の祖母に當る、妾は金曜日毎に細き棒に騎りて往復す、御身未だ之を聞かずや、妾の年齡は八十歳或は百二歳又は百二十歳なり御身の望に從つて之を定めよ、ニウヨークの新聞紙は何時も其都合よき年齒を附す妾が印度に住み馴れ、其僧侶と共に幻術を行なひぬ、是妾の實際爲したる所、御身の問ふが如く誠に然り若し妾の生るゝ事今少しく早かりせば御身の郷國、自由の境に於てすら妾を妖術者なりとて死刑に處せしなるべし云々と、いと喜ばしげに之を語りけり。次に、――女史の經歴を聞く。

消夏錄（其四）

雲峯生

○鎌倉

鎌倉の地狹隘僻陬多く見るべきなし、殊に舊趾古跡誠に名を存するのみ、されども源家北條氏の都城たるの故をもて今何人目を惹く、されば人よく此地を知る、余が更に記する夫れ或は要なからん、只余は余の感懷する所を少しく記して止ん哉。

○北條九代邸

北條時政より高時に至る、之を北條九代となす、外戚もて威を四海に震ひ、權を天下に握り、榮を極め華を粧ひし時、嗚呼又た何ぞ知らん、異日敗墟荒跡とならんとは、數頃の畑あり、草生ひ、將に實らんとす、只聞く風聲古昔に音づるゝを、賤の男遠近に散立して耕耘を勉む、亦昔の榮華を知らざるに似たり、是嘗て北條氏九代の跡なりとぞ、嘆極つて古寺に向つて發す、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ふる寺のふるき佛にこと〻はん
榮えしみやこいづこなりけん

此處より東西南北に見ゆる山谷皆古人の住けるあとありとあん、一々此にあげず、只夫れ記すべきものは綱張山とす、北條邸の東方に秀立する一巒、頼朝富士に狩するに當り此處に天幕を張り、是れ富岳の雪景なりとして眺めしとぞ。

○大塔の宮幽閉の土窟

萬物星霜と共に移易す、只夫れ變ぜざるものは正義か、護良親王大塔の宮嘗て正義の士を起す、一敗忽ち身は落魄して土窟に幽せられ、遂に凶刄に斃る、凶徒は知らず、よく親王の身を殺して其正義千歳に隕ちざるを、亦知らず不義の榮梯誠に浮雲に似たるを、今日誰わつてか亦凶徒の名を呼ぶものぞ、窟り親王の幽閉せられ玉ひし跡、今猶人蹤を絶す、思ふに亦今後久しく絶たざるべし、千山萬岳古色なし、而して親王の跡赫々芳聲殘る、

うき雲のはれ行くあとにさやかにも
松のひゞきの殘りけるかな

○靑草漠々たり源家の跡

只見る往古繁榮の地、靑草漠々悲風に靡くを、又聞く昔時榮耀の跡秋夕孤島の愁聲殘るを、しるべする擬の男靑靤に指してもの云ふ、曰く頼朝の邸嘗て此處に存すと、規模甚だ狹少、今人をして果して右府の居なりしや否やを疑はしむ、余嘗て西都に遊び、古代の名所を探り、今尚判然榮華の跡を認む、而して今源家の跡をたづね、誠に寂寞空蓼あるに驚く、移り變はるを世の常とはいへ、亦今更の心地して坐ろに思ふ事多し、

山賤の畑のみ今は殘りけり
昔の都いづこなりけん

小徑は靑草の間に通ず、階下に靑苔を踏で行く、山腹に古墳あり、標木に記す、源右府の墳と、即ち石階を上つて見る、古木亭々靑空に立つ、根底に石碑存す、靑苔厚く生じて樹陰風寒し、人生僅か五十年、八十州の大和民草脚下に靡きたる右大將も一抔の夢疾く破れ、正治三年正月十三日敢へなくなり、今僅かに一古碑を止むるのみ、

訪う人も絶えし古塚苔むして
昔のあとを見るよしぞなき

是も感極つて溢れしもの、未だ語調の如何を顧みるに遑なし、矚詠して風に咽ひて嘆ず、白旗山上老松悲色を帶び、古

墳々下夕陽愁ふるが如し、
夕づく日わづかに殘る古塚に
松の音のみ音づるゝ哉。

○古來の大戰爭

著名の統計學者、教授レチユ、レビ氏は、西歷第一年以降、稱して基督教國と云ふ國々にて起りたる大戰爭の數を計り、合して二百八十六回ありと云ひぬ。而して其の何如なるとによりて戰爭を開きたるかを區別して、左の如く分類したり、

領分を廣くせん爲め野心大望を以て開戰せし事	四四回
奪略、降服などの戰	二二
復讐返報の戰	二四
名譽及主權を定めんが爲の戰	八
領地不明の時、要求を爭ふの戰	六
王位の爭の戰	四一
同盟助力の名を利用したる戰	三〇
敵の大をそねみたるより起るの戰	二三
商賣より起りたる戰	五
內亂	五五
宗教の戰附たり土耳兒及異教國へ對する十字軍	二八

すでに如此し、平和協會の働らきを要するや明らかなり。

一女學生の經驗

山下石翁

多年宣教師派の女學校に在學し、后ち出でゝ田舍に方付きたる人の經驗をきくに、

妾わが今日に至る迄て實地に主婦たるの道を經驗せしとに付き申述れば、曩の日の事思ひ出されて様々に考へ候。過る比ろ女學生の品行に付きて彼此と申すものゝありしは必竟根なし事に相違なけれど、玆に一の言ひ逃る可らざる失策は、確かに今の女學校及び女學生の上に存すと思はれ侍る。女學校を出で十數年間の螢雪の苦と師の心勞とを煩はして漸やく社會に臨むもの、今ま其數夥たゞしからん、左るに不幸なるは、其の是迄に受けたる教育が、只管らに西洋風にして、何事も彼國に倣らひて教へられたれば、今ま實地に一家の經濟を掌どる時に至りては、師に學びたる書物上の議論とは大ひに異なり、それ〳〵の土地の風俗、又一國にて申さば其憲法とも云ふべき家風などに付き、万事自己の考ふる所ろと齟齬すること許りなり。左れば、好まぬ乍ら、又々新たに老人に習るき慣はしを一々敎はるとに

九

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

候。妾わは斯くして、女學校を出でたるのち更に一の女學校に入りたる心地し、古の心地も自づから無くなれるやうに覺へ候云々。

家政天下

しづの女

水戸黄門は五十三驛を庭にうつして御覽ありき。小さしとも大ひなるもの、雛形とせば樂しみ淺きとなし。鷄の口となるとも牛の後へとなる勿れ、大世界に於て奴とならんより、小さき社會の王となるに若かず。世のたわれ男、役もなきとに狂奔し、演說の一つ二つ、委員の名二つ三つ、位ひにて政治家のお作をするとも、抑も何の樂しきとかある。一生空論にあせりて七十の齡をわたに過さんより、一家を甘く治めて茲に天下を支配するの覺悟を行ふより濟きとなし。家は是れ一つの國なり、此國の女王となりて万事を調理するは主婦の大幸にあらずや。此邊の娛樂、うかれ男の知る所ならず。

大學校優等生ホーセット孃の勝利

左に記する所は孃が不棠の勉強深沈なるによつて學業進步の狀を述ぶるものなり、英文を翻譯せるものにて充分に原意を存するを得ず、讀者乞ふ容るせ。

碓氷山人

ニウンハムの一女生、學業優るの故を以て名聲高し、思ふに何人も其經歷を知らんと欲するならん。孃や沈着温柔にして質素朴直を好む、嘗て世の流行を追はず、人に對して粧はず、腦力濟健にして正邪を分つ事明かなり、人の云ふ所ろ正しければ即ち從ひ、意に得ざれば飽くまで抗す、資性活潑にして意志剛に、事物を視る周到愼密よく其眞相を察す。孃幼きより古風の服粧を着け、毛髮垂れて肩に達るも敢て人に恥ぢず、世を憚らず、孃嘗てニウンハムに來りし時以爲らく學校に於て少しく欠點あり、よからぬ書生あらんには世の亂暴惡口の徒は必らず之を指摘して非議すべし、若斯く判斷するを通常の人情とせば是人心の邪曲なるが故なり、人心を改良して一層高正ならしめざるべからずと、孃常に其主義を保持する事確く、亦之を遂せんとする望み强し。

ホーセット孃の性質

人の勤勉する事あるも容易に從はず、故に人或は云ふ孃其面容快活に見ゆるも神經鈍くして用を爲さずと、亦云ふ事を取る徐々として人に後ると、何んぞ知らん孃は是れ靜粛愼言にして物に當り、事に處する輕率浮潤ならざるが故に人之を見て難ずるとを。思ふに孃の如く克己の念强くして惰情を制するもの少なかるべし。夜は十一時に寢に就き、晨は八時に起き

出づ、常に規定を正しく守り、若し其爲せし所を詰問せらるゝあれば其全力を盡せしよしを語りて平然たり。其眠るや常に安心の容あらはれ、無益の事に心を煩はさゞるを知るべし。紙筆を取り、文章を爲さんとするや常に靜思沈想す、されど其書する所を以て滿足するに非ず、滿足せざるが故に愈々進歩せん事を欲して倦まず。勉勤其度を得て、衛生の道を誤らず、故に孃はケムブリッヂの大學に在りて益々身躰強壯にありしとぞ。世人多くは云ふ、女學生は學問に進歩すると同時に其身躰に衰弱を來すと、然るに今ホーセット孃の有樣を見るに決して然らず、學に勉むる愈々久しくして益々壯健なり、世の女學生たるもの鑑みる所ありて可なり。

クロー孃

甞てクロー孃許多の女學生を集め云つて曰く御身等によく敎訓を告げん、他なし時を定めて早く寢ね、早く起くべしと、是蓋しホーセット孃の起居よく一定せるに學ぶべしとの意なり。孃が其品行方正學業優等なるの故を以てニウンハム校の名譽を輝かしめたればクロー孃も誇りがほに斯く語りしなるべし。ホーセット孃はクロー孃と三年間居を共にするの許を得たり、是誠に榮譽の地位にして何人も容易に得る能はざる所なり。

クローホールに於ける孃の居室

小奇麗の室にして兩側に窓あり、草樹鬱茂せる森林と、花咲蝶舞ふの閑園とを眺むべし。ニウンハム大學其隣りにあり、此處より見ゆる幾多の女學生或は勉強に餘念なくあり、或は毬を打ちて戯るゝあり、或は三々伍々打ちつれて行歩するあれば、左提右携して相話するものあり、數年の間眠食を共にし、勉強を共にし、遊戯を共にせる學生相親しむ樣美はしく見ゆめり。孃の室中用ゆる所の器は僅かに箪笥、古机、及び寢床の一隅にあると、一脚の安樂椅子あるに過ぎず、陶器の山畫一葉、數種の寫眞、紙畫數葉、サッセックスなる孃の家より海上を眺むるの景を寫せる繪一幅、是其室の裝飾なりとす。書箱に並列する書物を見ても孃の學識を想知すべし、時至れば湯罐子の內に隔てゝ、一小室の靜粛なる生活に於て萬足りて差支へなし、是孃がクローホールの生活一斑を叙せるものなり。

ホーセット孃の兩親

孃は兩親より政治、經濟、智識を得、在學中之に就て孃が說く所常に實際に當る、何人も之を聞て感ぜぬ者なかりし。孃は

殊更に修辭學を究めず、文法書を學ばず、只平居心掛る所は文字章句を明瞭になし、文意をして彰わらしむるにあり。只文章に關してのみあらず、萬事明正瞭然たるを好む、故にケムブリッヂの諸生曰く孃の爲せる所誠に明らかにして一も曖昧模棱のわとなしと、一問題起れば即ち靜思して決して誤る事なし、萬事を爲し遂ぐる必らず、簡便の法方あり、孃よく之を察す、故に其事を始むるや甚だ遲々たるが如し、されど狡兎必らずしも龜より速きに非ず、遲しと見ゆるもの却つて勝を制す、孃亦然り、急激に失して誤たんより愼密にして得る所あるを可とす。孃は實に愼密周到の人あり。

プロフェッサー、シッヂウイック云へり、今を去る二十年の昔孃が一歲半の齡に達せし時ホーセット夫人の繪畫室に於て夜會を催せり、誰か此時に於いて知らん今日のホーセット孃出でん事をと、是シッヂウイック氏がホーセット夫人に述べし祝辭なりとす、世人此一女生の事をよく察知して大ひに學ぶ處あれ。

涙滴々

娘なき、ある名高き女丈夫、人の娘を娘と思ひて其が一生の緣にしに付きて掛念す。剛わき者の間ひより流るゝと思へば、淸き流れ一きは淸し。

妾は一兩年間心を配り居候へども妾が家に來往するものには都べて其念を絶ち今日に於ては調べて見んと思ふ程の人もなくなりぬ、妾に反して君は壯年時代前途目的あるものの知己も不少と存じ候間何卒妾が意中御推擧御助力被下度候、世の中妙齡の娘を持ちし母親の情、妾も今始めて思ひやり候、同人の爲に願ふ所ろは、財產家に非ず、大學者に非ず、商人に非ず、唯實着にして親切なるものにある也、情深かき人にして加ふるに財產あり學力あれば尤とも幸ひあり、同人は御承知の如く美ならず、才絶倫と申すわけにあらず、學力も亦日用に不便をかけぬ迄なれど、精神の純潔なるは妾が心中誇る所ろに候……。

深夜の星

かすみ

○蝶のまよひ

僧正遍昭が歌に、

散りぬれば、後はあくたになる花を、
思ひ知らずも、まどふ蝶かな。

されど、斯く迷ふもの、蝶のみにあらず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○犬の聲

われ嘗て、洋服着たる友達と或る片田舍を過りけり、偶として相別れ、何處の路を行しやを知らず、思ひまどへる時遥かに犬の連りに吠ゆる聲きこゆ、われ打笑みて悟りぬ、あゝ田舍の犬のほゆる所ろは洋服着たる人の路すじならんと。藤原の勝臣の歌に、

白浪のあとなきかたに行く船も、
風ぞたよりのしるべなりけり。

○詩の推敲

予れ詩を推敲するに就て悟入したることあり予が父は俳諧を好めり其話に或人生海鼠の句を作りて曰く、板敷に下女取り落す生海鼠かな、師の曰く善しと雖ども道具多きに過ぐ再考すべしと、乃はち改めて曰く、板敷に取り落したる生海鼠かな、師の曰く甚だ善し然れども猶ほ未だし其人苦吟すれども得ること能はず、師乃はち改めて曰く、取り落し取り落したる生海鼠かな、と。予此話を聞て大に推敲の旨を得ることを覺ゆ、是れ悟の一端なり（廣瀨淡窓）。

○幽邃

わが友、鎌倉に暑を避け、將に去らんとする時、左の一文を草しぬ、

われ鎌倉を離るゝにあらず、鎌倉われを棄つるにあらず、われ圖らず攝理の下に茲に來り、われ圖らず攝理の下に此幸ちある日を送りぬ、われ今又茲を去る偶然にあらず、攝理の然らしむるなり、われ盤山に登りては嚴肅なる天地を讃美へてカルバリー山上の寶血を懷ひ、われ海濱に足を洗ふては一叱怒濤を鎭め給ひし千八百七十年の昔を追ひぬ、われ家に入りては兄妹の團欒せる床しの樣に高韻あるエデンの聖を慕ひぬ、時去り時來りて優渥の神恩を持來し、日佳き日歸りて無限の天祐を持來し、今又此時此日に送られて茲を去らんとす、アー盤山の松籟永久に此くの如きか、蒼海の白沙永久に此くの如きか、兄妹の團欒永久に此くの如きか、觀よ天は高し昨日も今日も觀よ地は濶し昨日も今日も、タイム、スペース何にかあらん唯見る都城孤窓の下、日々夜々人知れぬ心、風に雨に神知る思。

○近世の學者

近世の學者は、初め史記を讀て、戰國の山師の昔を見覺る故、先是にて豪傑氣象を生じて、本分の良心を失ひ、次に世說を讀て魏晋の放蕩者共を見覺る故、是にて曠達の氣象を生じて、天分の良心掃地滅盡す、扨此より學問兼博にして、字面を知り、故事を記し我は博識なりと高慢の氣日々に長

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

じ世人を見て俗物となし義理にも通ぜざる詩文を書き散らして、予は才子なり予は博學なりあとど倨傲不遜の悪心悪行のみ増長す顔之推の家訓に戒めたると、今の世顔前に多く湧き出づ。予故に今の學問にては、百卷讀ば百卷だけ道に遠く、千卷讀ば千卷だけ道に遠くなると云とは、是なり無學の人の罪には非ざれども、學者の如く天分の良心を斷滅せざる故に却て事に觸れて良心發見の妙あり、學者は良心揚地せる故天地の理にも暗く、人道の理にも暗く、昧然たる昏愚の人なり、聖人の經言も其欲を發すると不能、其迷ひを復すると不能が故に、近來大博識と云へる人の行狀、非人と同類なるにて、予言の僞らざるを知るべし況んや其下なる者をや、此後の學者は、途轍を改て聖道を志すべし。さて此まで悪學に染たる者も、其本心に復すべし(太田錦城)。

きよめぬ庭

其二十二　　洒落齋主人

空氣の腐敗

空氣と云へるものは、目に見ゆるものならぬものから、世の人の此をこゝろすることも、いと忽諸なり。されど此世界は、悉く空氣より覆ひつゝまれたるものにて、其高さは地理學上の、十哩或は十二哩もありと云ふ。あらゆる動物植物に至るまで、此空氣なくは半時もそのまゝに、生活可くもあらず。人は時一分の間に十六回、一時間に千回、一晝夜には三萬回餘りの呼吸をなし、四十五石(九千リーテル)ほどの空氣を出し入れすとか、衛生學と云へる本に見へたり。

習慣など云ふほどものおそろしきことはあらじ、多くの人の集會たる室に、他より入り來りたるときは、いたく悪しき香の鼻をつきて、其中の空氣の、悪しくなりたるを、知り得可けれど、中に居る人々は、少しも此に氣のつきし氣色さえなし。斯かの悪しくなりたる、空氣の中にありては、そが悪しきに染みて、悪しと感ぜざるによるあらん。人の呼吸する空氣のみならで、世の中のこと、何れにもかくこそあれ。悪しき人と交りたらんに、始のほどは悪しきことする人よ、と思ひけるうち、いつしか此に染みては、其事悪しとも思はず、自からさえ爲すに至る、遊女の如き業も然り、かならずや始のほどは、暗き木蔭、人の目に觸れざらんとそつとめ、甚く恥らひ忍ぶ。招かん人は面をつゝみ、形體を更へし者ならんに、後には人々の、全く之に染みけん、賤の上人の歌に詠まれ、名ある學者の詩に作られ、あるは物の本にさえ、ほこり貌にあらはさゝるに至りては、はや人々の、此わざ悪しと思へるの念うすくなりぬること、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

空氣の惡くなりたる中に、心安くして集會ひ居る人におなじ。善きことに染まるも、亦其理かならず均しからん。衣通す蘭麝の香、くもれる夕にさえ、まぎれなき梅が香も、鼻になれたらんには、香しとも思はず。手足ひきのばされし、父母の恩も、生長たらん後は、己の力にて、のびたらんこゝちし。高くあがめられ、ゆたかにくらす祿も、年月たちては、不足こゝちし。賤が伏家に、月洩る簷も、心安らに眠らるゝ國恩も、身に染しのちはそれと思はで、なにくれと苦情いふ。春の樹の下には、日の暮るを忘れ。夏の夕涼には、身の冷るを覺えず。人情の基と云るゝ色情も、此に溺れては精神を破り。百藥の長と稱らるゝ酒も、此に耽なば身體を害ふ。國家の爲にとて立たる政黨も、終には私の爭に全力を盡し。道德を敎ふるが爲に立たる宗敎も、時に破戒の僧を出す。實に習慣ほどおそろしきものはあらず。

人の皮膚はものかは、岩石さえさくるばかりなる冬の日、物好みする人ありて、かゝるときの寒風を、袋などに納めおきて、金も鎔けんほどの、三伏の夏の日に、出したらましかは、さぞかし珍らかならんとて、幸ひ家に藏めたる、いと大なる、空氣袋とが云へるもののありけるをもて、外に出で、思ふまゝに、此寒風納め入れて、倉庫に藏めおきぬ。夏は來にけり、今年は華氏の九十度より、百度ばかりの暑にて、堪へがたしなど人々のつぶやく頃、そが家の若き息子、ふと風袋のこと思ひ出し、試しみんとて、朋友の兩人三人來り會せしを幸ひ、彼の風袋を倉庫より出し、我少し、彼少し、面にあて出しこゝろむるに、いかにもこゝろよし、今少し出し給はれ、我なみこそ先なれ、など云へるうちに、あなかなしや、風袋は空虛となりぬ。息子は愕き恐れて、父の歸り給はゞ、いかゞせんと、涙ぐまんばかりなり。一人の友之をなぐさめて、今はや詮方なし、何物にもあれ、此風袋に入れ、充滿しおきて、責を免るゝにしかず、吾儕化學を知り侍れば、今やガスをしたてゝ、此の袋をみたしてん。それには水素ガス作ることいと易し、されは壜を欲し、何もほし、かもほし、とて、急ぎ藥品ども整へ來りて、切りにガスを作り、風袋のうちに入れ、思ふまゝに之を充滿したれば、人々其の智謀に、ひたとあきれ居たり。さるに彼の化學者も、心せくがまゝ、輕くすめる水素ガス($Zn+SO_4H_2=SO_4Zn+2H$)作らんと思ひて、あな笑止、いといまいましき臭する、硫化水素ガス($FeS+SO_4H_2=SO_4Fe+H_2S$)をなん作り入れ、風袋はさきの如く、倉庫になん藏られぬ。

明る日、主人は數名の賓客を招待ぬ、こは彼風袋を出して、時ならぬ寒風を三伏の席の中に起し、大喝采を得ての、心構なりけり。定の時にありければ、客は數の如く集ひ來たり、それこれの饗應おさからず、主客互に盃をかわし、好き機會と見てけ

れば

主　今日は御招待申ながら、何の馳走なく、甚だ失禮ですが、此に今一つの御肴を、おひき申そうと存じて、取て置きました。

用意の風袋もて、その辞に、通ひの者は、彼の袋を、倉庫より出し來りて、席へ出しぬ。エヘンと云へる志はふきの下より、

主　そも此袋の中の物は、去年の冬、最も寒き日、皮膚をつんざく計りの風を入れたるにて、開明の今日、雪や氷を蓄へて、三伏の暑さを凌ぐ方法はあれど、寒風を蓄へて、此堪へがたき暑氣を拂ふ者は、そも某を以て嚆矢とするでせう。諸君どうか少々宛、御嘗なされて、喝采を願ひます。

とて、袋の結を緩め、風を出し始めたるに、さぞ心よからんと、我さきにわたらんと、面を出すに、風の香質にいまはしく、卵の腐りたるもの〻臭も、かくあらじときこえける。

客　ヤア此は臭い、恐しく臭いナ、何したのだろふ、

主人も、風のえならぬ臭に、いたく肝を消し、切りに不審しき容貌をなし居たるが、ハタとばかり手をうちて、

主　今年の温氣は、惡ひ氣候だと思つて居たが、どうです、風まで腐敗ッたと見えます。

小説

小公子

第二回（上）

若松しづ子

これから後一週間の間といふものはセドリックは漫く事許りで、萬づ夢の様に感ぜられました。第一、おつかさんのいつて聞せて下さる事が皆な不思議でたまらず、二度も三度も聞直さない中は會得が出來ませんかつた。そうしてホッブスおぢはマアあんと思ふだろうかと、自分にも想像しかねてゐました。先第一に、華族といふとが其話しの始まりでした。抑も自分のまだ見たとのないお祖父様が、侯爵の華族さまだそうで、それから其跡を繼て侯爵におなりあさる可きおは伯父様といふが、落馬しておなくなりなさる。其次には、二番目の伯父様が其爵位をお受なさる筈なのが、是も俄にローマといふ處て熱病でお隠れにあつて仕舞う。サアこふなつてからは、若しセドリックのおとつさまが存命ならば、其跡へお直りなさる可を、みんあ此世に入つしやらないで、セドリック丈が殘てゐるのだから、お祖父様のお跡には、自分が侯爵になるとだといふ話でした。今の處ではドリンコート侯爵の跡を讓得く可き人の豫じめ名のるてふフォントルロフ殿なる尊號は、と

りも直さず自分の新姓名と云聞せられました。セドリックが始めて此話を聞ました時は、思はず顔の色を變へました。

かあさん、僕は侯爵になり度ないよ、ダッチ僕の友だちに侯爵さんかになるものは一人もないんだもの、かあさん、侯爵にならなくつちやどうしてもいけないの？

といひました。然るに此事は免かれられぬものと見えて、其晩、二人は表の窓から外の見すぼらしい町を眺めながら、久敷間其話をしてゐました。セドリックは、毎の通り、兩手を片膝の週圍へ廻して、低い椅子の上に坐つてゐましたが、どうやら迷惑そうな其顔は詰めて考へた爲かポット赤らんでゐました。必竟、お祖父様がセドリックを英國へ來る樣にと、迎をおよこしなさつたので、おつかさんが行なければいけまいと思ふとおつしやるのでした。おつかさんが悲しそうな眼つきで窓から外を眺めながら、

セデーや、おとつさんが入つしつたら、矢つ張りそうさせ度と思召すだろうとわたしは思ふのだよ。おとつさんは大層おうちを戀しがつて入つしやる方だつたよ、そうして、おまへはまだ年は行かず、分るまいが、そこには色々考へなければならぬ都合もあるのだからね、全體、わたしがおまへを引留めて遣なければ大層我儘な母になるのだよ、おまへがやがて成人すれば何も彼もスッカリ分り升よ。

とおいひでした。セドリックは氣のなさそうに、頭を振つて

僕はネ、ホッブスおぢさんに分れるのが嫌でしよふがないんです。僕も淋しひだろうし、おぢさんだつて、さむしがるに違いないんだもの、それから、みんなと分れるのが大變嫌なんです。

といひました。さて英國からフォレトルロイ殿お迎にとて遣わされたドリンコート家附屬の代言人ハヴィンヤムといふ人が、翌日此家へ來ました時、セドリックは尚種々の話を聞ました。併し成人の後、滅法富祐の身分になり、此處、彼處に城郭を所有し、美麗なる花苑、廣大なる鑛山、立派なる借地、借家が皆、自分のものになると聞ても、それがセドリックの慰めにはならず、たゞホッブスおぢのこと斗りが氣に掛つてゐました。それ故朝飯を濟ますと直ぐ、心配しい〱彼の店へと出掛ました。ホッブスは丁度新聞を讀んでゐた處でしたが、セドリックはいつもになくまじめ顔に側へ寄りました。自分に斯樣〱のことがあつたと唐突に申したら、さぞ肝をつぶすだろうから、どふかしておだやかに其話しがし度とセドリッ

クは道々考へながら來たのでしたが、ホップスは突然、

イヤアー、お早う！

と聲を掛ました。セドリックの方でも、

お早う！

といひました。今日は何故か、例の高い椅子には乘らず、そこに有る明箱の上へ坐つて膝をかゝへてヂットしてゐたことが、やゝ暫くしてしたから、ホップスはやがて不審顔に新聞の上から見上て、

イヤアーどふだ？

と云ひました。セドリックは此時一生懸命に氣を落着けて、こふ云ひ出しました、

おぢさん、きのふの朝、こゝで話しをしてゐたと覺へてゐ升か？

ソウサ、イギリスのことだつけナ。

と答へました。

エー、それから、ソラ、丁度メレーが這入つて來た時子？

ソウダ／＼ヴィクトリヤのとだの、華族のとナニカ話してゐたつけナ。

それから子、ソラ……ソラと（吃りながら）アノ、侯爵のよ子、覺へてゐないの？

ホンニ、さうだつたナア、あいつ等のともちつと斗り話してたつけ、ソウダ／＼。

セドリックは額の邊にフサ／＼してゐた髮の根本まで眞赤になり、凡そ、一生涯にこれほど間がわるかつたとはないと自分は思ひ、ホップスおぢもいくらか間がわるくはなかろうかと氣遣ひながら、

おぢさん、こゝらの明箱へ、侯爵なんかの腰はかけさせないとおつしやた子イ？。

と又言葉をつぎ升た。ホップスは少し威張りかげんに、

ソウトモ／＼、こゝらへ腰でも掛やうもんなら、ひどいめに逢はせてやるは、

と答へました、

おぢさん、そういふけれども、此箱の上へ腰かけてゐるのが侯爵だよ！

と聞て、ホップスは殆ど椅子から飛落そうな氣色でした。

何を言ふんだナア！。

とビックリ聲で云ました。セドリックは遠慮氣味に、

エー、デモ僕が侯爵なんです、アノ、これからそれになるん

です、嘘いひやしませんよ。

といひました、ホツプスは、これは大變だといふ顏附で、俄かに立上つて、寒暖計を見に行きました、振り向て、チツトセドリツクの顏を見詰ながら、

暑氣にチツトやられてるナ、今日はまたすてきに暑いからナア、全躰、どんな氣持がするんだ？、どつか痛いのか？

いつから、そんな心持になつたんだ？

と立續けにとひ掛けて、セドリツクの髮毛の中へ大きな手を突込みました。處でます〳〵、間がわるく、臆せ氣味に。

おぢさん、心配してくれて有難、ダガ僕は何ともないんです、頭もどふもしやしません、チイおぢさん、僕もそれがほんとだつて云ふのは嫌だけれど、きのふメレが僕を連れに來たのもそれなんで、ハヴィレヤムさんが僕のかあさんに其の事を話しに來たんです、そうして其の人は代言人ですと。

ホツプスは此時椅子にドツカト直り、ハンケチで頻りに額を拭ひながら、

ナンデモ、どつちか霍亂でもするにちげいねいんだ。

ととんきやう聲で云ました、

イ、へ、おぢさん、そんなとはないんですよ、チイ、おぢさん、仕方がないから、二人とも明らめなくつちやナ、ダツテ、ハヴィレヤムさんが、態々イギリスから其話しを聞かせに來たんで、僕のお祖父さんがよこしたんですと。

ホツプスはあつけにとられて、セドリツクのまじめなあどけない顏を見つめながら、

おまへのおぢいさんとは、それは一躰、誰なんだへ？

と尋ねました。

セドリツクはポツケツトの中へ手を入れて、丸つこい、子供ら敷手跡で、覺束なさそうに書た紙切を取出して

僕はよく覺へてゐられなかつたから、チ、これへ書附けて置たんです、(といひながら迂諭な調子で)、ドリンコウト侯爵、ジヨン、アーサ、モリノー、エロルと讀上げ、それが僕のお祖父さんの名なんです、そうして、お城に住んでゐるんですとソウソウ二ツも三ツもお城があるんですと。僕のとうさんチ、死んだ僕のとうさんは一番の末子で、僕はとうさんがおなくなりなさらなければ、侯爵にナンカ成りやしないんで、それから、とうさんの兄さんが二人おなくなりなさらなけりや、とうさんも侯爵にならない處だつたん

たけれど、みんな無なつてしまつて、僕切り殘つてゐて他に男の子がないからネ、僕があらなけりやいけないんですと、ダカラ、僕のお祖父さんがイギリスへ來いつて、迎をおよこしなすつたんですよ。

ホップスはます／＼逆上あがつた樣子で、額と頭の禿たおけしを絶間なく拭ひながら、頻りに忙敷い息づかひをしてゐ升た。何うやら不思議なとが實際あつたのだと云ことは少しづゝ呑込めては來ましたが、眼の前にあどけない、氣遣わしそうな顏附をしたセドリックが明箱の上に腰かけてゐて、見れば、少しも以前と變つてはゐず、矢張り、きのふ見た時の紺の服に赤い頸飾をつけた器量よしで、容易くつて、きつそうな孩子に相違ないと故、貴族がどうして、こふしての話しが中々チヨツト合點が行ませんかつた。其上、セドリックの話振が餘りに無邪氣で、さつぱりとしてゐて、自分には大したととも一向氣が付かずにゐる樣子ゆゑ倘更仰天したのでした。

おまへの名はなん……あんたつたつけナ？

と問ひ掛けました、

アノ、フオントルロイ殿、エロル、セドリックといふんです、ハヴイレヤムさんがなんでもそういひましたつけ、僕がネ最初、坐敷へ這入つて行つたらネ、これがフオントルロイ殿で御座るか、といひましたつけよ、

フーン、おらあ、あきれつちまつた！

ホップスおぢのこの言葉はいつも非常に驚いたとか、氣の揉めるとかいふ時によく出たのでした。差當り、仰天の餘り、他にいふとも思付きませんかつた。セドリックは矢張り是が相當な、差支ない嘆息の言葉と許り思つてゐました。ホップスを非常に敬愛してゐる處から總て其言葉までが、尤もに感じられて、いつも心服してゐました。未だ世間の交際を知らぬセドリックにはホップスの餘り禮義正しい人物でないとは氣が付ませんかつたが固より自分のおつかさんと比べて見れば、ホップスの違つてゐたとは分りました、併しおつかさんは婦人のことゆゑ、婦人と男子とはどふしても違つてゐるものと自身に道理をつけてゐました。此時なにか物足りなそふにホップスを見詰めてゐましたが、暫くして、

おぢさん、イギリスは大變遠いんだネ？

と尋ねました。

ソウサ、大西洋を渡つて向ふだよ、

と答へました。

僕はそれが嫌なんですよ、ヒヨットスルトいつまでか逢れないチ、おぢさん、僕はそれを考へると嫌になるよ。親友も離れさるを得ずといふとがあるは。

とポップスがいひました。

ソウ、おぢさんと僕は幾年か親友だつたんだチ。

ソウトモ、おまへが生れるからだわ、此町を抱かれて歩いたのはなんでも生れてから四十日もたつてからだつけ。

セドリックは溜息をつきながら、

アヽ〳〵僕は其時分侯爵ナンカニならなけりやあらないと思はなかつたつけ。

おまへ、よす譯にはいかないのかナ、

どふもそうは行あいようですよ、かあさんがチ、とふさんが入らしやればキットそうさせ度つておつしやるつていひましたよ、ダガチ、僕はどうしても侯爵にあらなくっちやいけあいんなら、とふする積りですよ、チイ、僕は極く好い侯爵になるんです、壓制家になんかはならないんです、そうしても一度アメリカと戰爭しよふナンチいわふもんなら、僕が一生懸命で止めませう。

これからポップスと久敷間子細ら敷話しをしてゐました、最初の不審が解けてからはポップスは存外愚痴つぽくなく余義あいとして觀念した樣うでした、セドリックが暇を告るまでにはさま〴〵なとを尋ねました。セドリックは思ふ樣に返事が出來ませんかつたから、自分で自由に理屈を附けて、段々侯爵、伯爵の談話に油が乘つて來てから、こふいふもんだ、あゝいふもんだの、講釋はハヴィシヤム氏にでも聞かせたらさぞ肝をつぶさせましたろう。

寄書

假名の衰退に就て

小野鵝堂

假字の我國に行はるゝや久し、其簡略にして實用に適する、優美にして高雅の致ある、實に本朝固有の美術たり、僅々四十七原字、各人の意匠に因て、縱橫變化の餘地を存す、若夫之が妙理を尋ぬれは、麒麟鳳凰の姿、行雲流水の態、忽にして跳龍、忽にして走馳、飢舞の狀もあるへく、江聲の韻もあるへし、豈唯言語を寫し、日用を辨するに止まらんや、而て其姿致婉麗、殊に女性の技藝に適するものあり、古人稱して女文字といふ、眞に以あるなり、然るに方今文明に際し、泰西の文物を容るゝに急にして、假字書法の如きは一切捨て顧みざるが如し、誠に遺憾に堪へざるなり、然りと雖日本文字の全く歐化せざる限りは、未だ以て此技の廢す可らざるを知る、於此乎、將來女子の敎育中、最に必要なる可きを信す、旣に此必要を知らば誰か欲し得て疎ならざるを欲せざらんや。

夫假字は和文和歌に伴なふ、文字中の一躰のみ、素より專門に攻究するの價なしと雖、其能くする能くせざるとは、大に文章の品位に關り、兼て人品の尊卑に關せり、況んや筆蹟の後世に傳ふべきものをや、又況んや家庭敎育の任ある將來の慈母に於てをや。

假字に淵源あり沿革あり、學者の尤も注意すべき所なり、惟ふにいろは躰の作られてより、漸次朝野に行なはれ道風貫之等出でゝ、頻りに之が書風を研究し、佐理行

成公任等の名家、輩て起り、低昂闔揚、互に發明する所あり、遂に一種の風致を生じ、從來日本固有として海外に仰がるゝ迄に完成したり、試に當代名手の跡を見れば、各新意を出して而も法度を失なはず、雄渾風雅にして、神韻漂渺たり、此後年代と共に、漸く進化し、囿て百法千出、互に流派を競ひ、其弊や嫵媚に流れ、氣象を失ひ、意匠下りて、遂に見るべからざるに至り、施て今日の衰退を致せり、蓋中世以降、假字の一技、全く御家流なるものゝ專有に歸し、徒らに其區域中に彷徨して、上代文字の源流を極めず、無學より無學に傳へ、以て近代の寺子屋流なる者を現出するに至れるや疑ふべくもあらず。

按するに書法に元、和樣漢樣の別なし、只風土人情の異なるより、其間自ら意匠の差あるを見るのみ、片假名と云ひ、平假名と云ひ、均しく此れ眞草の省略にして、到底其筆法の範圍を出づべきに非ず、然れども古來一切、本邦人の意匠に依て、造化せられたる者あれば、漢字法外、別におのづから一種の趣味を存せり、此故に漢字習熟の餘力に於へ、直に假字を習はんとするも、容易に及ぶ可らざるなり、夫れ漢字は支那に大成し、假字は本朝に大成す、漢字は漢字の沿革に就て學ぶべし、假字は假字の沿革に就て究むべし、要するに假字を指して和と云ひ、漢字を指して漢と云へば則可なりと雖も一般の文字に和漢の流派ありとせば則大なる謬想なるべし、其後世和樣に漢字の見るべきなく、漢樣に假字の見るべきなき、蓋之が餘弊のみ。

後世の所謂和樣漢樣と稱するものを見るに、和樣は假字を根據として、漢字に疎く、漢樣は漢字を根據として、假字を究めず、而して漢字を論ずるときは、和樣の人と雖も、必ず二王を說かざるなく、假字を論ずる時は漢樣の人と雖も、必ず貫之を稱せざるはなし、豈又迂ならずや。

世間有志の人、願くは此等後世の流派に拘泥して、現用の應濶なる弊を忘るゝ勿れ、苟も先賢に就き、書法の一斑を知らば、以後おのれの好尚に隨し、古今人の衆長を採て可なり、此の如くして習熟宜きを得ば、所謂和漢相混和して道風たり行成たる亦其難きに非ざるべし。

近來假字の衰退に隨ひ、夫の和文を講し、和歌を詠ずる女にして、尚且其書風に冷淡なるは、抑何の現象ぞや、本朝の美術の爲に、女子の品位の爲に、歎息の外なきなり、今日女學校にして之を教ふる者、及び假字に堪能なる專門家なきに非ず、只寥々晨星の如く、一般の頽勢を支へ難きを如何せん、余不敏、書を知る者に非ずと雖も、性來の嗜好として、公暇の餘、未だ曾て少しも廢せず、其假字の一事に就て、古を慕ひ今を歎くや、殊に切なるものあり、冀くは廣く同感の友を得て、知らざるものは之を聞き、得たるものは之を傳へ、益此技を考究し、國光の一端として、永遠に隆ならしめんと欲するなり、記して以て江湖に質す。

文詢

●伊勢津愛讀者　人種改良論を唱へし人は高橋義雄氏にて明治十五六年の頃かと覺えます、氏の論ずる所は、西洋人と雜婚すれば、彼が身体強壯なる爲め漸々彼の分子多くなり何百年とか（確かに記臆せず）經る内に全く白晳人と我國人が變化してしまふ、斯くすれば身体強壯の人種となるといふのです、加藤博士は反對して大和人種を絕つは宜しくない若斯くなれば日本が西洋の屬國となるは即ち此時だと云ひましたら高橋氏がそうでない人種は變つても日本人といふ思想は變らないと辯じた事がありました、と記臆します。

●佐藤顯理氏は歸化人かとの御問ひ、名は西洋の名ですが、同氏は純然たる日本人なりとの事です。

●同じき人に　申す東京文學院と申す學校確かにあります、東京神田錦町一丁目十二番地にあります、創立は本年始め頃とかや、先づ三十名の生徒を以て始め度々發狀して今は餘程大に趣くとの事です、校長は杉浦重剛氏か將島六一郎氏か、たしかに存じません、職員は重もに東京英語學校の人々です即ち千頭清臣氏、杉浦重剛氏、堀内正朝氏、松下丈吉氏、志賀重昂氏等でしよふ、未だあまり同院の評判と云ふ事も聞きません、元來同院は東京法學院と聯絡して私立大學の内であると申します、英語學校にて普通科を教え同校を卒業して文學院に入り專門を修むるのです、專力は帝國文科大學を卒業せしものに劣らぬ樣にする目的だと聞きました、尙同院に關して心得となるべき事はとの御問ひ一々申上る譯に參りません、規則書を御取寄せになればよく分りましよふ。

●大坂樋林浪樣　渡邊清風氏の御住所は西京上京區烏丸通一條上ると云ふ所です○女學雜誌及び女學生に和歌掲載の事は承諾致します○廣告の一條は社員と計り候所承諾致し兼ぬる由につき左樣御心得を願ひます。

●奥州蛾眉女史　書物を讀むのが御嫌ひである故好きになる妙藥はないかとの御問ひ、東京市中の賣藥舖を問ひ合せましたがどうも見當りません、女史の御性質や境遇をよく承りますれば何かよき方法があるかも知れません。

●新潟井上くら子樣　本誌百九十一號にありますから御注文になれば送ります。

●北越一女生樣　髮毛の縮ばれるのは如何なる理由か存じませんが其有樣を實地拜見しなくば治療の方法も分らないと醫師が申しました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○學者と美貌

今年女學生の成績天下を驚かす程なるに際し、兎角女の學文するものはキリヨウ(容色)宜しからずなど云ふ僻見再興し、英國に於ても間ま其愚說を吐くものありと見へ、スペクテートア雜誌の記者は辨じて曰く、誰か學者に美貌なしと云ふ、學力と美貌とは全く緣なきもの也、學力偉丈夫を凌げるレデー、モンタグは一世の美婦人なりき、然れども學識古今に卓出したるソクラチースは名だゝる醜男子たりしに非ずや、アフリカにて尤とも美なる黑人種はニアッサランド人なれど、其智識は魚類にも劣れり、亞細亞に於て尤とも銳敏なるは支那人なれど、貌の美くしきは彼の愚なる印度人に及ばず、人もしテンニソンを見ば路上の通行者と云へども一顧再顧して其美に驚歎すべし、若しブローニンを見ば、何如なる頑陋夫ぞと卑しみて顧みもすまじ、而して其胸中の錦繡之が爲めに增減するに非す、學力と美貌と何の關はりあらんや、と。

○倚商論

風聽高かりしが、音、秋蟬の如く其來るに至れば勢ほひ左程にもなし。官員の官の字を廢し、官員の位階を廢し、以て商人の地位を高くせんと云ふ、時事新報例によりて漫話を述ぶるとと見へたり。盖し商を倚ばせんには、商人の品格を高くするより明法なし、而して商人の品格を高くせんには先づ其人物を磨かするより善きはなし。今日の商人にては永久迚も倚ばるゝとなけん。

○夏休季の女工

新潟英和女學校は、夏休の間だに女工を執業するとを發起したり。此邊夏と云へども左程に暑からざるを以て、休業の間だ、女工執務の一科を設け、養蠶に手を着けて、女生學資の一助を得せしむるなり、𥡴工夫と云ふべし。

○僧衣編輯人

甲府にては佛教熱心の官吏二人、知事を后ち楯にし、其令孃を發起人頭とし、山梨女學雜誌なるものを發刊して、今や同縣下に大に勃興せんとする文明主義の女子教育を挫折せんとを企だて、目下其資金募集中也。二百圓以上五百圓集まるときは直ちに着手すると云ふ。

○森田豐

同人は年來の社員にて久しく勤勉いたし居りたるに、此頃ろ失行の事あり、われ忠實に諫告し、暫らく出社を止め置きて甲府に行く、歸京の后ち再び委細に申聞けんと通じ置たるに、彼れ面目なしとや思ひけん、不在中に脫走し、伊勢の國より書中涙々謝述したり、今は何處に在る乎、氣の毒の事なり、依て不得止退社人と見做し向后一切本社に關係なきものと爲す。女學雜誌社創業以來初めて一人の社員を退ぞく、素懷に背くと多し。

○水と林

南石外史

今年は天の惡みにて五穀豊饒と思ひつるに、水害又た到る處ろに起り、米は既に四五分の害を蒙むりぬ、あゝ天安くんぞ好みて斯民に災わいせん、年來濫りに山林を濫伐し、治水安土の泉源を涸らせしによつて此の公罰あり、上帝の律昭々、敢て術くもす可らず、速かに林政を修めずんば、罰更に甚しからんとす。

○神佛を論じて林政に及ぶ

同前

時事新報が此の策妙ならざるにあらず、然れども本願寺の財政すら修まらざるの今日に當つて、國土保安の山林を斯る寶僻の手に托すると知見に非す。國土保安の要所は國家自から之を管理せずんばある可らず。而して若し時事新報が望む所を行はんとには、之を官立若くは公立の學校に寄附し、學校に山林あると猶ほ昔しの學田ありしが如くするに若かざる也。

○東京女學館

一劍子

同館の廣告文を見るに、學位を有し教育に經驗ある外國女教師を聘し毫も宗教の臭味なく本邦貴婦人に最も適切なる教育を施すは全國唯だ獨り東京女學館あるのみ、とあり。驚ろくべき大言と云ふべし。特に同館の女教師は悉皆熱心なる監督教會信徒にして其一人は日曜叢誌と云へる雜誌の發刊に一と方ならず盡力し至つ

て傳道に熱心なり故を以て其塾生にも懇切に教を說く由にて塾生は殊の外か敬服し居る由、又此校の主管外山正一氏は嘗て社會改良と基督教なる小冊子を作り女性が耶蘇教を信ずべきことを切りに論述したる程なるに、今ま堂々として如此き廣告文を出すに於ては、是れ目下僅かに三四十名の塾生を更に如何にもして增加せんとするの策なりと云はるゝとも之を辨じがたきに非ずや、少しく愼しむことを要す。

○電氣死刑

初めてケムレルを電氣死刑に處し、人間を殺ろして一の試驗となしたり、慘酷此上もなきことと云ふべし。米國の仁人は非常に怒り立てり、吾人遙かに聞くも、肉動き神激して止まず。

○女義太夫

近來女義太夫の風儀壞亂して淫猥の所行を爲すもの多しとの噂ありしが此程警視廳に於て其取締を嚴重にすべしと席亭主人及び同業者へ達せられたり右に付同業各門弟中に客を樂屋へ引き入れ又は猥りに客の前に出て挨拶をするかの所行ある時は師匠の特權を以て其三味線見臺等を沒收し向島白髭前の埋地に於て之を燒棄つることに決したりといふ。

○東洋諸國傳道師

支那には人口七十三万三千人に付一人、サイアムには六十万人に付き一人、朝鮮には三十万人に付一人、天竺には卅五万人に付一人、日本には二十一万五千人に付一人づゝの傳教師あり。

○離婚條例の案

英國にては離婚條例改正の案、第三百六十一號議案として過日下院の机上に現はる、案文には、妻は夫の姦淫及び故なく四年以上離れ居るの故を以て、又夫は妻が故なく四年以上離れ居るの故を以て、離婚を高等法院へ願ひ出るの權ありと記す。未だ試決を聞かざれど、其通過するは恐らく難し。

離婚の可否に關するグラッドストン氏の說は本誌第二百一號に見ゆ參看すべし。

○在米日本婦人放逐論

如此き論勢やうやく北米合衆國に起り來らんとす、あゝ支那人の放逐せらるゝは其勉強するがゆえ也、天下皆な米國政府を誹らざるはあらず、然れども米國に於ける日本醜業の婦人を退去せんとするに至ては亦何人か拒まん、同感の兄姉達が計る處ろあれ。

本誌第二百二十二號「米國に於ける墮落せる同胞」の一項參看。

○月が鳴たか

一聲は月が鳴たかほとゝぎす、にては殘月一聲の意味を十分に言ひ現さずとの說、よき思ひつきなりと評し置たるに、罌中庵主人は之に假名の誤まりにして原作者の心にあらず、正さしく左の如き發句なれば之を三誦して殘月の意味の十分に味み出されたることを承知すべしとあり。味ひ見るに、感極まりなし、

一聲は月に鳴たかほとゝぎす。

○米國寺院の四つの柱

ウイラード女史演說して曰く、純潔と平安とを維持すべき亞米利加てふ一大寺院の四つの柱は何ぞ。曰く男女合敎、その一也。婦女子が財產を獨立せしむると、其二也。衣裝を健全にすると、其三也。政權を均一にする、其四也。

●新潟英和女學校 の校長成瀨仁藏氏は女學及慈善の事研究の爲め來年米國に洋行するに付き、女學雜誌社客員にして目下新潟北越學館に在る、澁谷善作氏代つて校長となれり。

●西京高等女學校 は今期より法學士赤塚隆介氏を月俸四十圓にて雇ひたり。

●テムペランス、テムプル 米國婦人禁酒會員の會堂たる同院の事は前年度記載したる所なるが、いよ／＼去六月廿八日より建築に著手し、來る明治廿五年五月に落成すべき見積りの由。

●今月廿八日は ウイラード女史が誕生日ゆへ之を祝せんとて準備大方ならず、プレーア夫人より四方に廣告せる所ろあり。

●學務課長 エラ、サビンはポートランド市學務委員長に再選せられ、年俸二千五百弗をうく、

●京都 の府立尋常師範校女子部の寄宿舍、附屬小學校、同保育場の新築已でに落成し來る十一日移轉式あるよし。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

廢娼記事

●山梨縣下廢娼運動

廢娼會員　報

同縣下の廢娼義會員は、衆議員撰擧畢れるの當日より又々廢娼運動に着手し、縣に縣下同志者の大會を開き、引つゝき廢娼大演說會を催ふしたるが、更に一回大演說會を開きいよ〳〵縣下の輿論を起さんとて、去廿八日巖本善治氏を東京より招聘したり。

●兼てより準備一と方ならず、新海榮太郎、小池太三郞、山中笑、原野彥太郞の四氏は途中に出迎ひ、其夜勝沼に於て第一回演說會を催ふす、霖雨一層激しく通行も止まる程なりしに、會場內には聽衆充滿し、尙ほ傘を負ふて路傍に逆立するものあり、合して四百餘名なり、七八里外よりわざ〳〵來會せしものあり、此地には珍らしき集會なりと云ふ。若尾氏三郞氏開會の主旨を述べ、小池太三郞（眞正の文明）新海榮太郞（名と實）、西川太次郞（地方人士の務むべき問題）、山中笑（時來れり）、巖本善治（淸風と巫風）の五氏交る〳〵演說す。峽中日報の記事に云く、當夜は各雄辨を振はれたる中に巖本善治氏の演說は流石女流の先導者だけありて一きは聽衆を感ぜしめたり。山梨日々の記事に云く、何れも熱心充分所思を陳じ閉會を告げしは午後十一時頃なりし特に當夜は宗敎家のみの演說に非ざれば廢娼問題の社會問題たる趣意を悟らしめたりと。

●廿九日の朝には、大雨いよ〳〵降り、堤防流決、寺院の巨鐘物すごき折から、諸氏は辛ふじて甲府に入り、正午十二時長養軒に於て巖本善治氏の慰勞會を開く、野口英夫、淺尾長殷、武藤一明氏を初め、（峽中日報に云く）雨夫ありしゆへ來會者は廿餘名なりしが一同十分の歡を盡し（山梨日々に云く）互に胸襟を披らき快談時を移して散會せり。夜に入りて雨益々烈しく、通行も止まるほどなり、特に四方は皆な川どめにて來會者の途絕へたれば、當夜の演說は延引せんかなど評議ありしも、近日の霖雨之を明日に延しても快晴の見込なきにより、遂に其夜八時より甲府望仙閣に開會す、（峽中日報に云く）然るに意想外にも尙ほ二百餘名の來衆ありき。新海榮太郎（其源を淸めよ）、小池太三郞（斷行すべし）、原野彥太郞（磁石と機鑑）、金子せん子（兄弟姉妹に訴ふ）、小池孫太郞（犧牲の說）、巖本善治（姦淫公許）の諸氏交々演說す。同夜は特に篤志の人のみ集會せしものか、終始諸聽傾默して大に感動したるもの〻如く見へたり。醫師武藤一明氏は嘗に存娼論を演說せんなど語り居られたる由なるが同夜果然廢娼義會に入會ありぬ、當夜巖本氏の演說筆記は兩新聞に揭載せらる。

●（山梨日々に云く）、今回來峽せし巖本善治氏は豫定の如く勝沼、甲府、市川に於て演說を爲し富士川を下りて明日歸京の日取なりしに折惡しく强雨のありし爲め道を阻てられ市川大門村の演說會には臨む能はざるやと有志者は心配し居たるに幸にして昨日午后同地へ赴かれたれば昨夜は深會なりしならんと、實に此一日の夜の演說會は尤も盛會なりき、市川にて例しなき程の聽衆にて且つ無類に謹聽したり。最初小池太三郞氏開會の主旨を述べ、次に村松銑三（青年諸士に告ぐ）、青柳網太郞（謹んで存娼論者に告ぐ）、塚原等（娼妓果して不得止の必要物乎）、巖本善治（廢娼の利害）の諸氏順次に演述す、同地の長者渡邊信氏も來聽して云く、今夕の演說は非常の大感動を與へたり何如なる反對論者も一言中何なからんと。

●翌二日巖本氏歸京せらる、去月來再たび燃上りたる廢娼論の勢力此度一層盛んとなり、前途極めて多望、廢娼斷行の日殆んど近づける心地し、縣下の有志者皆此問題に傾斜するに至れり、兩新聞社にも、常置委員にも、議員にも、醫師にも、監獄長にも、熱心なる賛成家あり、又此度び「峽中時事」と云へる雜誌を改良して、廢娼義會員山木節氏之を主宰し、縣下猖風の青年及び廢娼事業の一大機關と爲すとに定まり、山梨日々の記者塚原等氏の如きは、小說を以て大に輿論を動かさんとするの計畫もあり、今後成効收實の日近からんとは、何人も概むね確信し居るもの〻如し。

●尙ほ語が會は、巖本氏の演說筆記を印刷し、廣く全縣下に配布するの見込にて、目今準備中也。

●相州橫須賀

佐々木笑止郞報

余は橫濱青年會より廢娼地方遊說の事を依囑せられ會友菅間鐵次郞氏と供に去る廿五日先づ橫須賀町に行きたり其夕同地の青年會と明夜廢娼演說會を開きたしと申込みしに時已に熟せしものと見へて早速こゝに一致の賛成を得同會員松崎木野宗原其他三四の諸氏の奔走盡力に因りて廿六日午後第八時より同町寄席岩本亭に開會するを得るに至れり右諸氏は事の甚だ急なるにより盛大を期し難しと余等に斷め告げられたれども定刻に至りヒシ〳〵と推し來り見る〳〵滿場に立錐の餘地なきまでになれり小野某先づ開會の趣意を陳述し次に菅間鐵次郞氏は廢娼の急務なる演題を以て滔々拍手の中に辨じ去りノー〳〵と呼ふ一二の聲は場角に虫の呼吸程に聞へたり次に笑受郞は「公娼の害毒」にて演說したり一層一段喝采ありしと云ふことなきは實に公娼の害毒は萬民の認むる所なるを知り菅間氏の廢娼の急務を辨する時に拍手の止まざりしは以て廢娼の急務なるを賛するを窺ふべし余の演說の終るや廢娼萬歲と屋を覆す連呼を以て閉會を告げたり聽衆の數は無慮三百有餘にして余が演說中に入場を謝絕せしも百名近くなるべしと書へり十二三名の婦人、中に三四の女學生おも見受けたり橫須賀青年會が掛念せしにも關らず如此盛會をりたるは全く輿論の勢力とは謂へ余は青年會々員諸君の一方ならぬ盡力輿論の發議者たりしを茲謝するなり因に記す同町にては過般を以て廢娼演說の嚆矢と爲すと云ふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

●香川縣高松市通信　(八月廿六日)

高松婦人會　同會は東京師範學校の卒業生にして當今本縣尋常師範學校の訓導三井よね子其他數名の女子にて去明治二十年の創立に係るものにして目下柴原知事の夫人を總理と推選し吉田阪本の兩書記官高洲寺田の兩夫人其他各課長の妻女及民間紳士の夫人令孃等を始め殆さ二百名の會員あり毎月第一日曜日に例會を開き婦女子に必須なる學科を講究し居れるに本縣下に最大勢力を有する婦人の團軆は同會を以て随一とす。

開婦會　同會は縣下丸龜兵營の各將校の夫人令孃が主唱にて先年創立せしものにして會員は百數十名あるも外來人の入會を許さすと云へり。

女子部の景况　本縣尋常師範學校女子部は生徒三十餘名ありて新設日猶淺きを以て捗々しき效を見すと云へり以上概するに本縣は愛媛縣より分割已來未だ二年に滿たされば何事にも不進歩の模樣にて就中女學の一段に至りては長大息すべきこと少なからずと云へり

貧民救助　米價の暴騰に依て貧民の迷惑一方ならざるより有志者は夫々各義金を募集して貧民を救恤せしに義金一千五百圓餘も遂に消耗し終り今は救助の資金なきより中止の體裁なるより貧民の大困難實に氣の毒なる有樣なり

●和歌山通信

女學生の現况

一當地にて稍高等の學科を修めらるゝの女學生に在りては各自に一の目的を有して高等師範校の募集に應ぜんとて其準備をなすあり尋常師範校に入らんとして勉學せらるゝも多し概していへは教育事業に從ふことを希望するもの﹅如し而して高等小學卒業後の概况をいへは高等小學卒業生の中(平均一回四十名なり尤女生のみ)三分位或は四分位は各自前述の目的を有す他は其儘家に留りて裁縫の稽古をなさんとて私立裁縫塲に出入す卒業後遊學を企てる女生多き時は八分一少きは十分一にも足らす

女散髮師

一英國ロンドンにては此頃漸次婦人の散髮業に從事するもの多きよし貴社雜誌二百二十五號に見え次に江州長濱通信には手亜頗る巧なる婦人あるよし當塲の散髮店にも三年程前より二三名の年若き婦人其業に就き漸次熟練の樣子なり

●水戶市通信

○風俗樸直浮華ならず水戶男子の進取と氣象に乏しく何事をも武にして固なる如く女子も亦封建時代の貞操を守り其德を恒にするもの﹅如く從て總て女性の事業保守の傾きあり

敎育

○東京一ツ橋外なる共立女子職業學校卒業生菊池倭文子、大高つる子には大宇上市島見町十二番地に實業的女子講習會を起したるも何に原因するか上流の女子二三名の外入學するものなし何卒盛大に致したきものなり。

○高等女學校卒業生佐藤仲子(栃木縣人)には水陽女學校を設立せんとて目下奔走中なりと一日も早く其目的を達せられん事を望む。

○茨城縣尋常師範學校は水戶市に在り前校長渡瀨寅次郞先生には女子教育獎勵の爲め同校女子部設置に盡力せられしも先生掛冠と共に其議止みぬ。渡瀨夫人龜子女史には女子講習會なる者を設け專ら女子教育に盡力し居られしも渡瀨先生掛冠と共に女史亦去て東京に在り今や四五十の女學生は水戶の荒野に彷徨せり之を要するに女子教育は一二年前より退歩せしもの﹅如し水戶市一万の女子中一ツの女學校もなく賢女良母を養成するなきは、又女性の爲めに熱心、誠意忠實に奔走計畫する人のあらざるは遺憾なる事にこそ。

○尋常中學校も水戶市にあり四百餘名の生徒あり女子部なし高等小學校尋常小學校共に隆盛なり。

○幼稚園は弘道館にあり四拾餘名の生徒あり教授には內林女史、朝倉女史、矢口女史等熱心に其任に當られり

水戶市の廢娼

○高木信吉君等主唱して廢娼を主張し代言人醫士等有力者の贊成者あり。

水戶市の救濟

當市の慈善家相計り水戶市役所に申込み救濟方を依賴し市役所にては市中の貧困者を取調べ六百餘圓の米を百六十名の貧困者へ施與せられたる由警察官には巡回して右貧民の狀況を視察し懶惰なる者なき樣說諭せらるゝとか

水戶市の基督敎

新敎には一致、浸禮、普連土、舊敎には希臘、天主、等なり信者は合せて百四五十名もあらんか然れども純粹の水戶人はいと稀なり希臘、天主は尤も古くして下流に勢力を占め一致、浸禮、は上流人士若しくは學生多し婦人の信徒は男子の三分の一位なり

週報

○官令　本週法律第七十四、七十五、七十六、七十七、七十八號及び勅令第百八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四號等を裁可公布せらる

○宮廷　二十七日宮中に於て授爵式を行はせらる

○政治　二十六日立憲自由黨認可せらる同日內閣會議に山縣、西鄕、山田、松方、後藤、芳川、陸奥の七大臣參集せり同日關東委員會並に東北七州有志懇親會あり●廿九日內閣會議開かる●一日山縣、青木、陸奥、後藤の諸大臣登閣せり●二日改進黨同志懇親會を上野公園櫻雲臺に開けり

○會社　東洋物產會社は去る廿六日を以て設立の旨其の筋へ屆け出たり同日東京商工會定式及臨時會を開けり

○災報　二十二日上州白根山噴火せり

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の教員孰れも熟達善良あり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

新入生徒募集

來ル九月ヨリ校則ヲ改正シ尋常小學部幷ニ幼稚園ヘ新入生徒ヲ募集ス○尋常小學部ハ普通課目外ニ英語ヲ親切丁寧ニ教授ス○幼稚園ニハ今回新ニ保姆ニ熟練ナル「エダ」孃ヲ招聘シ專ラ保育ヲ擔任セシム○本校ハ亦英語編物及音樂ヲ專ラ學バントスル女子ノ望ニ應シ親切ニ教授ス

麹町區下二番町四十六番地

私立 櫻井女學校附屬 尋常小學校 及 幼稚園

看病婦生徒募集

○入學志願者ハ九月十日迄必ス申込可シ○教授ハ書籍口授臨床講義實地傳習等ニテ細大漏スコトナシ○學資ハ薪炭油看病服書籍寢室等給與スルヲ以テ食費トシ一ヶ月大凡金貳圓五拾錢ノ外要セス○規則書望ノ向ヘハ直ニ送附ス

京都烏丸通上長者町

京都看病婦學校

●女子工藝學校及び附屬授業場へ寄附

一金百圓　大隈伯爵夫人
一同貳拾圓　安藤夫人
一同參圓○七錢　帝國禁酒會關東部諸氏
一同壹圓　根本正君

右之通寄附相成候也

明治二十三年九月

麻布區市兵衛町壹丁目十五番地女子授産場事務所

佐々城豐壽
潮田千勢

女學生募集

本校豫科本科ニ入學志願者ハ九月八日迄ニ來校アルヘシ校則入用ノ方ハ郵劵二錢ヲ送ラハ呈スヘシ

仙臺市東三番丁七十五番地

宮城女學校

●○脚氣患者諸君よ左の○●

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

●官許專門 天下無比 かつけ根切灸點術●

附言輕症は一二度如何ある重病と雖ども四五度限り全治受合○灸治効能男女を論せずかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り

壽福堂

來る九月より婦人傳道者募集に付き志願の者は當會に於て問合すべし

但し少しく教育を受けし者を要す

麻布永坂町一番地

聖ヒルダ傳道會

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

生徒募集廣告

一今般普通科高等科ヘ女子生廿名男子生卅名限リ試驗上入學ヲ許ス志願者ハ九月廿五日限リ出校上願書ヲ差出ス可シ

本郷區追分町卅一番地

東京唱歌專門學校

今般設置認可相成候ニ付男女生共五十名募集ス志願者九月廿日限願書差出ス可シ

本郷區追分町卅一番地

東京國語專脩學校

横濱山手二百二十一番

聖經女學校生徒募集

本校九月十五日始業ス年齡十八年以上聖經研究志願ノ女子入學ヲ許ス九月十日迄申込ムベシ

規則書入用ノ方ハ郵劵二錢御送付アレ

○女生徒募集

本校生徒第一年級第二年級募集候條志願者ハ來九月十五日限申出ベシ其手續等ハ本校ニ承合スベシ

廿三年八月

京橋區南小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

麻布永坂町一番地

私立香蘭女學校生徒募集

今般本科豫科小學科ノ外更ニ尋常小學科ヲ設ケ九月十日ヨリ始業内外人各六名ニテ懇切ニ敎授ス

業務擴張ニ付産婆生拾五名募集

但シ基督信徒ニ限ル

月謝 無束脩無

赤坂檗研坂下表三丁目二十六番地

内務省免許産婆

龜井與志

横濱山手百七十八番

フェリス和英女學校

本校は幼稚科小學科豫科本科高等科の五科に分ち智徳躰育の大本に基き内外敎師周到懇切に之を授く冀くは世の眞の女子敎育を望み着實進歩を求むるの諸彥幸に之を信じて愛娘令妹を付託せられよ

社告

右者本月一日無斷脫走致し候に付き自今本社員にあらず

森田豐

明治二十三年九月

女學雜誌社

定價	
一册。六錢 郵税。一錢	(但府内無郵税)
十册。五十八錢 郵税。十錢	(同 前)
半年分 一圓四十三錢	府外は 一圓六十九錢
一年分 二圓六十錢	府外は 三圓四十二錢

廣告		
一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

東京市麴町區下六番町六番地

發行所 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY